

(様式 1 - 3)

福島県(南相馬市)水産業共同利用施設復興促進整備事業計画 水産業共同利用施設復興促進整備事業個票

令和 5 年 1 月時点

NO.	1	事業名	さけ飼育管理施設等整備事業	事業番号	2-1-2
交付団体	南相馬市		事業実施主体(直接/間接)	南相馬市	
総交付対象事業費	(47,925) 25,355 <73,280> 千円		全体事業費	73,280 千円	
水産業共同利用施設復興促進整備事業に関する目標					
南相馬市の真野川漁港では 58 名(令和 2 年度)の漁業者が沿岸漁業を営んでいる。東北地方太平洋沖地震及び東京電力福島第一原子力発電所事故の発災前である平成 21 年度においては、年間 1,790 トン、金額にして 461,295 千円(平成 21 年度)の水揚げがあった。その中で鮭は年間 177 トンの水揚げを占めており、重要な水産資源であった。また、鮭の遡上時期には多くの観光客が訪れ、重要な観光資源となっていた。 このような中、南相馬市は、震災・原発事故により市民の一部が避難を余儀なくされた。避難指示解除区域の小高区においては、平成 28 年 7 月に帰還困難区域を除いて避難指示が解除されたが、原発事故の影響により同区への帰還者が少なく、小高川鮭増殖組合の担い手を確保できず、鮭増殖事業を継続できなくなったため、令和 3 年 7 月に同組合が解散した。 南相馬市には小高川、新田川、真野川の 3 河川にそれぞれ鮭増殖組合があり、鮭増殖事業を行っていたが、小高川にて事業ができなくなったことで南相馬市の鮭増殖の生産力が減少した。このため、市全体の生産力を向上させるためには、既存施設の生産力を向上させる必要があり、南相馬市内の 3 河川で最も生産力がある真野川の実産力の向上を図ることが最も効率的である。 生産力の向上には採卵からふ化までの歩留まり(ふ化率)を向上させる必要があるが、本事業において採卵処理機能(親鮭処理)を有する管理棟を更新することで、採卵作業の効率を高め、卵の劣化を防ぐことで歩留まりを向上させ、資源の維持・増大を図ることを目標とする。					
事業概要					
●本事業で整備予定の各種施設工事及び設備整備は以下のとおりである。 ① さけ飼育管理・採卵施設(南相馬市鹿島区角川原地区) (主な施設) - 管理棟(器材倉庫、親鮭処理スペース、仮眠室、飼育管理室、トイレ) - 付帯施設(外柵) ●当該事業の復興計画等の位置づけ 「南相馬市農林水産業再興プラン」の P42 ③ 水産資源の維持・増殖 - サケや淡水魚の増殖の支援 サケの資源維持・増大のために、真野川等での捕獲、採卵、孵化、放流の増殖事業を支援する。					
当面の事業概要					
<令和 4 年度> - さけふ化施設管理棟(測量・設計・建築工事)、外柵(測量・設計) <令和 5 年度> - さけふ化施設管理棟(機械設備工事)、付帯施設(外柵工事、屋外排水工事)建築工事					
地域の水産業共同利用施設復興促進整備事業との関係					
関連する事業の概要					

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	